

第3章 良好な景観の形成に関する方針

3-1 景観形成の理念

1. 基本目標

本市の景観は、緑なす険しい山々、清らかで水量豊富な河川、変化に富んだ美しい海岸線など、豊かな自然によりその骨格が形成されている一方で、城下町の風情残る市街地など古い歴史や文化によって多様な景観が保たれています。

これらの田辺市らしい良好な景観は、人々の生活や生業の中で育まれ、支えられ、継承されてきました。私たちはこれらの取組に敬意を表しながら、身近なところに当たり前のようである田辺市らしい景観の価値に気づき、その成り立ちを丹念に読み解き、共有していく過程を通じて保全し、創造し、次代に引き継いでいかなければなりません。

このような認識の下に、市、市民及び事業者が協働し、田辺市らしい良好な景観の形成を図っていきます。

3-2 田辺市（田辺市景観計画区域）の良好な景観形成の方針

（1）精神文化を育んできた骨格となる自然景観を保全する

雄大なる山地や森林、河川（流域）、海岸などの自然や、自然と向き合い、関わりを持つことで培われてきた地域の風土など、日本人の精神文化を育んできた唯一無二の貴重な自然とそれらによって生み出される骨格的な景観を保全します。

i) 山地や森林、河川（流域）、海岸の景観を保全する

山地や森林、河川（流域）、海岸は、長い時にわたって本市の骨格を形作り、歴史・文化といった地域の風土を育み、暮らしにも多大なる影響を与えてきました。これらの自然は、日本人の精神文化発祥の起源としても広く共有されるべき唯一無二の価値を持つものであり、これらを保全します。

ii) 自然との関わりを再生する

自然の持つ豊かさ・恵み・厳しさなどに触れて学ぶ空間や機会づくり等を通じて、その大切さを共有するとともに、自然と人々の営みを支える仕組みづくりを通じて、豊かな自然との関わりを再生します。

（2）多様な時代の歴史や地域の文化が息づく景観を継承する

古代から中世、近世を経て現代に至る歴史の流れや、各時代を通じて育まれてきた地域の文化が息づく固有の景観を保全し、魅力を高めながら次代に継承します。

i) 地域の歴史的な街なみ景観を保全する

時間の蓄積と住民の努力によって育まれた地域の歴史的な街なみ景観は、一朝一夕に生まれるものではありません。その豊かな積み重ねを受け止め、次の世代へと継承するため、担い手づくりや活用方策等と組み合わせながら、街なみ景観の保全を図ります。

ii) 歴史・文化資源の周辺景観の保全と創生を図る

歴史・文化資源が持つ空間構成や景観構造の文脈を読み取りながら、これらの資源と一体となって価値を高め合う周辺景観の保全と創生を図ります。

(3) 人々の暮らしや地域の活動がつくる景観の魅力を醸成する

人々の営みや地域の活動によって支えられてきた日常の景観とともに、農林水産業や地域の伝統産業をはじめとする地場産業や新しい時代の商工業などの活動がつくる景観の魅力を高めます。

i) 長い時を経て形成された個性ある産業景観を保全する

本市で長く受け継がれてきた農林漁業や伝統工業・地場産業などが生み出した個性ある産業景観は、人々の営みの歴史を今に伝える景観資源であり、これらを保全します。

ii) 産業活動が創り出す景観の魅力を高める

商業など産業活動が創り出す景観は、まちににぎわいや活力を与えます。生き生きとしたまちの姿は、訪れる人のまちへの印象を深め、また訪れたいという気持ちにさせてくれます。こうした産業活動が創り出す景観の魅力を高めます。

iii) 身近な生活の営みが映し出された景観の魅力を育む

まちの中で人々が行き交うにぎわいのある景観、身の周りの自然と生活がとけ込んだ落ち着いた景観など、身近な生活の営みが映し出された多様な景観の魅力を育みます。

3-3 特定景観形成地域の景観形成方針

1. 熊野参詣道（中辺路）特定景観形成地域

(1) 文化財的価値を持つ古道及び沿道景観を保全する

～石畳が続く山道や沿道に残る王子、経塚などの沿道景観～

□永きにわたる熊野三山への往来により積み重ねられた文化財的価値を持つ古道及び沿道の景観を保全します。



▲工作物等を極力排除し、原状保存に努める

※古道沿道の景観イメージとして田辺市以外の写真についても使用しています。

(2) 古道と一体となり文化的景観としての価値を持つ眺望景観を保全する

～熊野古道から望む景観～

- 古道からの眺望景観を構成する山稜によるスカイラインを保全します。
- 林業の営みにより永い時間をかけ育まれてきた緑豊かな景観を保全します。
- 集落と背後の山林・農地が一体となった景観を保全します。
- 眺望点周辺の環境を維持し、眺望点からの景観を保全します。



▲山稜のスカイラインや山林・農地が一体化した景観を保全する

(3) 熊野の地へといざなうアクセスルートにふさわしい景観形成を図る

～主要なアクセスルートであり、熊野のイメージを形成する上で

重要な役割を果たす国道311号の沿道景観～

- 地域の景観の価値を損なわないような景観を形成します。
- 周囲の景観と調和した建築物、広告物等による沿道景観を形成します。



- ▲景観形成のイメージ
- 統一感のある建築物群（屋根形状、色彩、外壁後退等）
 - 道路付属物等の整備
 - 電線・電柱の地中化
 - 景観に配慮したガードレール等

(4) 暮らしの営みによってつくられた集落景観を保全する

～古道と関わる人々の暮らしの営みによってつくられてきた

固有の景観を有する地域内の集落景観～

- 地域住民とともに集落ごとの景観のなり立ちを読み解き共有していくプロセスを通じ、景観を構成する家屋や周囲の農地、里山などを保全します。
- 農地や里山、集落社会を支える担い手を育成します。



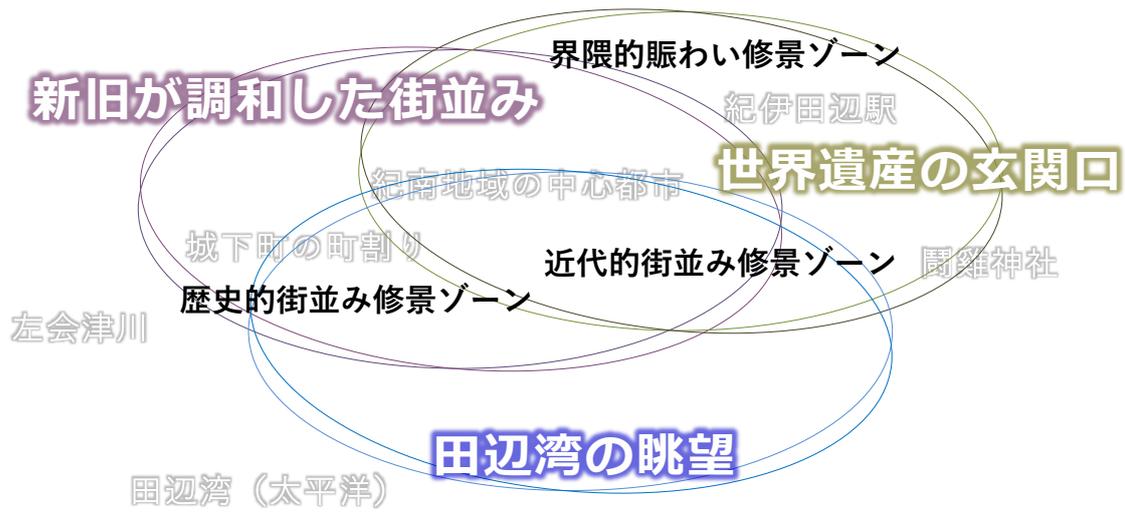
- ▲景観形成のイメージ
- 周辺と調和した外観の色彩、素材の使用
 - 樹木、田園等の保全

2. 田辺中心市街地特定景観形成地域

田辺中心市街地特定景観形成地域は、地域形成の歴史・経緯や、街並み景観を構成する公的領域と機能・用途等によって3つのゾーンに区分しており、それぞれに景観的特徴を有しています。

田辺市の中心市街地としての都市景観を形成するにあたって、これら3ゾーンの景観要素を繋ぐテーマを設定し、重層的な景観形成を目指します。

図 田辺中心市街地特定景観形成地域3つのテーマ



(1) 新旧の街並みが調和した気品と風情のある都市景観を創出する

本市の中心拠点としての位置づけを踏まえ、歴史・文化の資源を内在した地域特性を活かしつつ、新旧の街並みが共存・調和した都市景観の形成を図ります。

□ J R 紀伊田辺駅から扇ヶ浜公園に至る海へ誘う南北軸と、地域内を横断し白浜町やみなべ町と結ぶ東西軸を都市景観形成軸に位置づけ、土地利用や都市機能の更新に合わせ、“新しい田辺”の街並み景観の形成を図ります。[近代的街並み修景ゾーン]

□ 現在も残る旧城下町の町割りと空間構成を基本に、歴史的・文化的価値のある伝統的な建築様式・意匠を継承または活用し、この地域が有する風致を活かした“古くからの田辺”の街並み景観の形成を図ります。[歴史的街並み修景ゾーン]



(2) 世界遺産の玄関口としての都市景観を創出する

世界遺産の骨格を成す熊野参詣道（中辺路）の玄関口に位置することから、その歴史的価値を認識し、来訪者を出迎えもてなす都市景観の形成を図ります。

□ J R 紀伊田辺駅の駅舎背後の広がりのある風景の保持しつつ、熊野路をイメージした来訪者を迎える街並み景観の形成を図ります。[近代的街並み修景ゾーン]

□ 味光路における裏路地の独特な雰囲気を活かし、市街地の賑わい創出とともに、訪れる人を惹きつける文化的な都市景観の形成を図ります。[界隈的賑わい修景ゾーン]



(3) 田辺湾の眺望を活かした都市景観を創出する

紀南地域海岸部における広域交流の拡大を見据え、田辺市の歴史・文化との結節点として、新たな田辺の“発信”ゾーンにふさわしい都市景観の形成を図ります。

□ 砂浜と松林が続く扇ヶ浜の風景と文里湾の眺望を保持しつつ、賑わいを創出する機能の立地に際し、外洋に開かれた開放的な街並み景観の形成を図ります。[歴史的街並み修景ゾーン]

□ 扇ヶ浜など海側から望む“山々を背負う市街地”のパノラマを閉ざさず、伝統的風致の再生を進める中心市街地へと誘う街並み景観の形成を図ります。[歴史的街並み修景ゾーン]



3-4 景観形成重点地区の景観形成方針

1. 熊野本宮大社周辺景観形成重点地区

(1) 熊野古道の象徴としての山々に取り囲まれた景観を保全する

□熊野本宮大社と大斎原を地区における景観形成の中心に置き、熊野川と周囲を取り囲む山々が調和した景観の保全を図ります。



(2) 熊野の歴史・文化を世界に発信する景観を創出する

□来訪者を迎える国道 168 号沿道では、熊野本宮大社や大斎原の風致と調和した景観の形成を図ります。



2. 闘雞神社周辺景観形成重点地区

(1) 田辺市の歴史・文化の象徴となる景観を創出する

□参道の眺望点から闘雞神社及びその社叢を望む眺望の保持を図ります。

□闘雞神社参道沿いに、闘雞神社の歴史と文化がつくる本市の象徴的な景観を創出します。



(2) 闘雞神社の社叢を背景とした品格のある景観を創出する

□闘雞神社の風致を活かし、これと調和した品格のある景観の形成を図ります。

□闘雞神社の社叢の豊かな緑を活かし、その周辺においても緑豊かな景観の形成を図ります。

